

令和6年度
小松市未来型図書館等複合施設基本計画策定支援業務

複合施設機能の概要
博物館機能「地域の歴史文化の集積・編集」

2024年9月17日(火)

制作中



2-(3). 博物館機能「地域の歴史文化の集積・編集」

未来型図書館のビジョン・コンセプトとのつながり

“ビジョン”こまつを編む。こまつを巡らす。”と博物館機能

- ・ ビジョンは、未来型図書館ができることでまちや暮らしで実現させたいあり方です。博物館機能においても、まちの「情報」・「つながり」・「とき」の3つの要素を具体化し、「編む。巡らす。」というビジョンの実現を支えます。

3つのコンセプトと博物館機能

- ・ コンセプトは、ビジョンの実現に向けて施設が担っていくことです。本計画で示す機能も、コンセプトと紐づけて、具体的に検討したものです。
- ・ 3つのコンセプトは、互いに重なり、補い合いながら役割を発揮します。博物館機能もこうした関係の相互性を重視しながら具体化していきます。



出典：小松市 | 小松市未来型図書館基本構想

博物館法改正〈令和4年(2022年)〉以降の「これからの博物館」

小松版「文化をつなぐミュージアム」(Museum as Cultural Hub ※ICOM京都会議で提唱)を目指して

<これからの博物館に求められる役割・機能（5つの方向性）>

「守り、受け継ぐ」 資料の収集・保管・蓄積と文化の継承

「わかち合う」 資料の展示、情報の発信と文化の共有

「育む」 多世代への学びの提供

「つなぐ、向き合う」 社会や地域の課題（まちづくり・観光・福祉等）への対応

「営む」 専門人材の確保、持続可能な活動と経営の改善向上

- ・ 博物館法を制定していから約70年が経過し、博物館を取り巻く状況は大きく変化しています。
- ・ 博物館に求められる役割が多様化する中、設置主体の多様化と、適正な運営を確保するため、博物館法の目的や博物館の事業内容の見直しが行われました。

出典：文化庁 | 博物館法制度の今後の在り方について(答申)

博物館機能「地域の歴史文化の集積・編集」の基本的な考え方 1

これを土台に協議・検討の上更新

博物館機能の分散と未来型図書館を含むこまつミュージアム(小松市の美術館・博物館)の再構成

a. 3つの基本的機能と、3つの拡張的機能の一体化

- ・ 「収集・保管」「展示・教育」「調査・研究」という3つの基本的機能を基盤とし、「つなげる」「ひろげる」「つたえる」「みつける」という4つの中間的機能を新たに加え、両者が一体化する形で機能を構成します。

b. こまつミュージアムのネットワークのハブとしての役割

- ・ 小松市内の美術館・博物館全体の連携を強化し、それぞれの施設が持つ特性やコレクションを活かしながら、未来型図書館が情報と活動の拠点となります。異なる展示やイベントを連携して開催し、訪れるたびに新しい発見がある「つながりのある文化体験」を市民や観光客に提供します。

c. 共に集め、共に調べ、共に創り、共に発信する共創型博物館

- ・ 市民、研究者、クリエイターと一緒に活動できる「共創型博物館」として、市民参加型の展示企画やワークショップ、地域の歴史や文化のリサーチプロジェクトを推進します。市民のアイデアや経験を取り入れながら、小松市の魅力を国内外へ広げていきます。

博物館機能「地域の歴史文化の集積・編集」の基本的な考え方 2

これを土台に協議・検討の上更新

小松市の博物館としての可能性の探求

歴史学×民俗学の新たな可能性

- 地域の歴史や生活文化を深く掘り下げる人文学研究を重要な柱とします。歴史学と民俗学の視点から、地域に根付く伝統や風習、社会の変遷を紐解くことで、地域のアイデンティティと価値を再発見し、市民と共有していきます。この取り組みは、学問的な意義だけでなく、地域の魅力を内外に発信し、次世代に伝えるためにも欠かせないものです。
- 民俗資料と歴史資料を融合させた新しい視点から、小松市の「物語」を紡ぎ出します。このアプローチは、地域の文化的背景を多面的に捉え、訪れる人々に地域との深いつながりを感じてもらうことを目指します。

物語(ナラティブ)の導入による地域に、人に向けた博物館へ

- 「物語(ナラティブ)」の手法を取り入れ、地域の歴史や文化をわかりやすく、親しみやすく紹介します。市民一人ひとりの体験や記憶を集め、地域全体の物語として紡ぐことで、博物館を「人と地域がつながる場」にします。この手法により、訪れる人々は自分自身を地域の物語の一部として感じ、博物館をより身近で参加型の空間とすることができます。

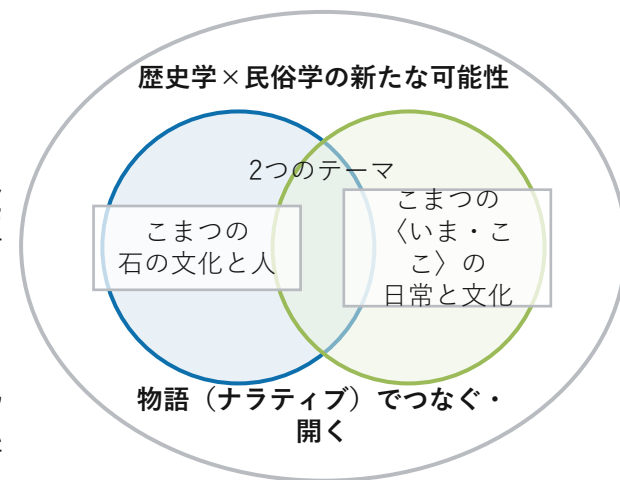
小松市の博物館としての2つのテーマ

a. 「こまつの石の文化と人」※公立小松大学「小松の石文化研究部門」との連携

- 小松市は、「石の文化」が地域の発展に深く関わってきました。この「石の文化と人」に焦点を当て、石そのものの魅力から、石工の技術や石材の活用法、石を通じたまちづくりの歴史を記録・展示します。暮らしと「石の文化」がどのように結びついてきたのか、体験を通じて学べる場を提供します。

b. 「こまつの〈いま・ここ〉の日常と文化」

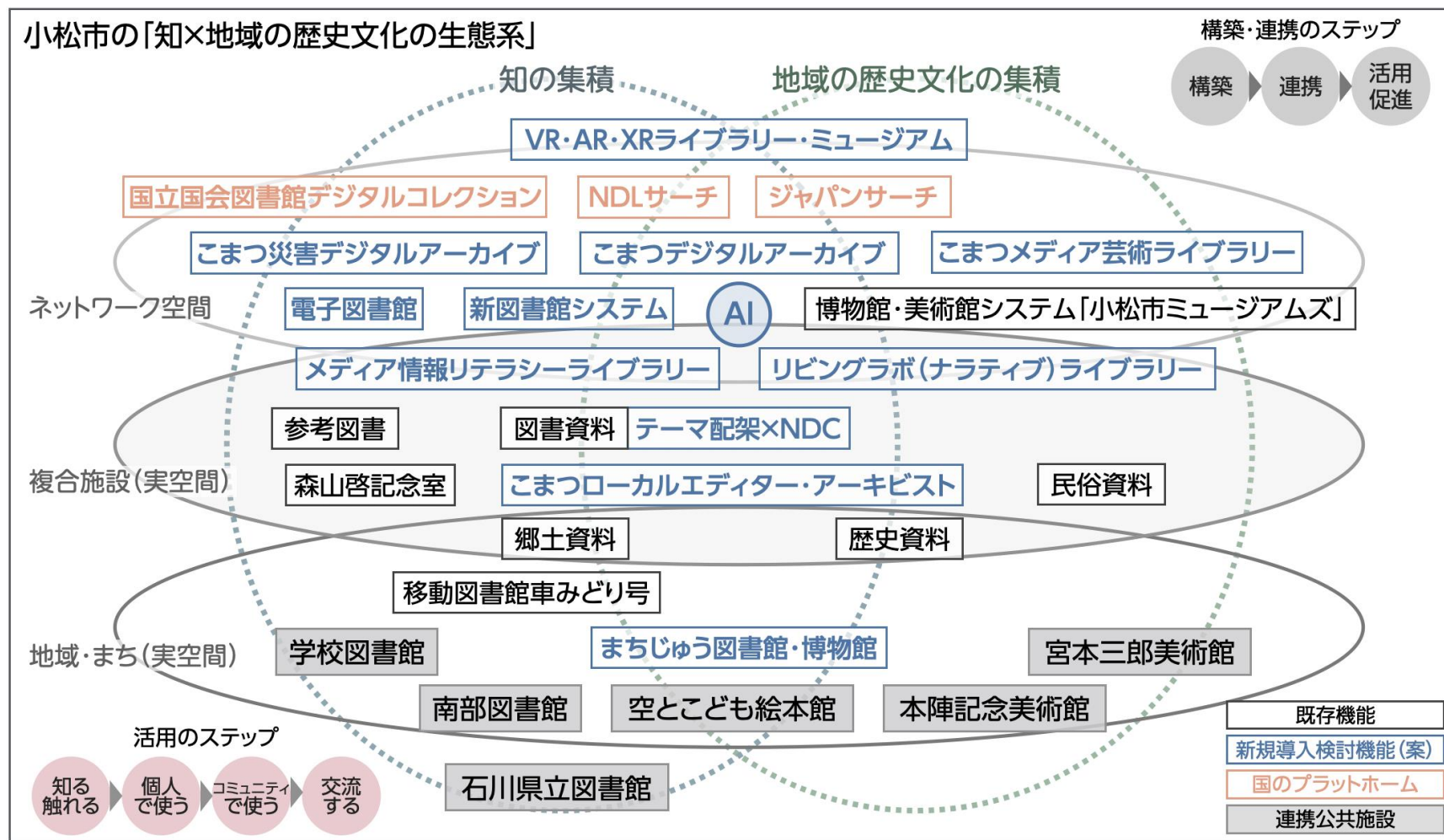
- 過去と現代の、暮らしや地域に根付いた「日常と文化」をテーマに設定します。地域の多様な日常を記録・展示します。聞き書きによる物語(ナラティブ)を中心に置き、多様な資料(モノ、写真、動画等)を通して共感の体験を提供します。



「知の集積」を中核とした「知×地域の歴史文化の生態系」のイメージ

協議・検討の上図版をシンプルな形に更新

- すべての市民が「地域の歴史文化の集積・編集」にアクセスできるように、モノや紙の資料だけではなく、デジタルアーカイブや、物語(ナラティブ)を活用して、共有・公開が広がる環境を整えます。



官民学連携による新しい協働・共創による運営体制の構築

提案※要検討

同一業務内で「主／従」の形ではなく、業務単位での分担へ

- 官民双方の得意な点を活かし、不得意な点を補うことができます。
- 役割と責任が明確になります。

学(公立小松大学)を含めた官民学連携による運営

- これまでの公立小松大学との連携の蓄積を活かすことができます。
- 教育・学習的効果(プロジェクトベースドラニングとしての実践)へとつないでいきます。

運営業務	施設全体	全体管理業務		○
		諸室貸出・利用受付・案内業務 (会議室、多目的室、各種スタジオ、市民ギャラリー、キッズ ルーム等)		○
		広報・利用促進業務		○
		リビングラボ運営支援業務(コーディネート等)		○
	図書館	図書等資料の移設・準備業務		○
		開業準備業務(予約・探索システムの構築等)		○
		利用受付・案内業務(サービス・レファレンス等)		○
		企画立案(サービス方針決定)業務		○
		図書館資料の購入図書決定・購入業務		○
		資料整理・保存業務		○
		関係機関・団体(ボランティア団体等)との関連業務		○
		学校・地域・生涯学習施設等との関連業務		○
	(展示館)	展示・企画業務	○主	○従
		資料整理・保存業務	○主	○従
		調査研究業務	○主	○従
		館内案内業務		○
		広報業務		○

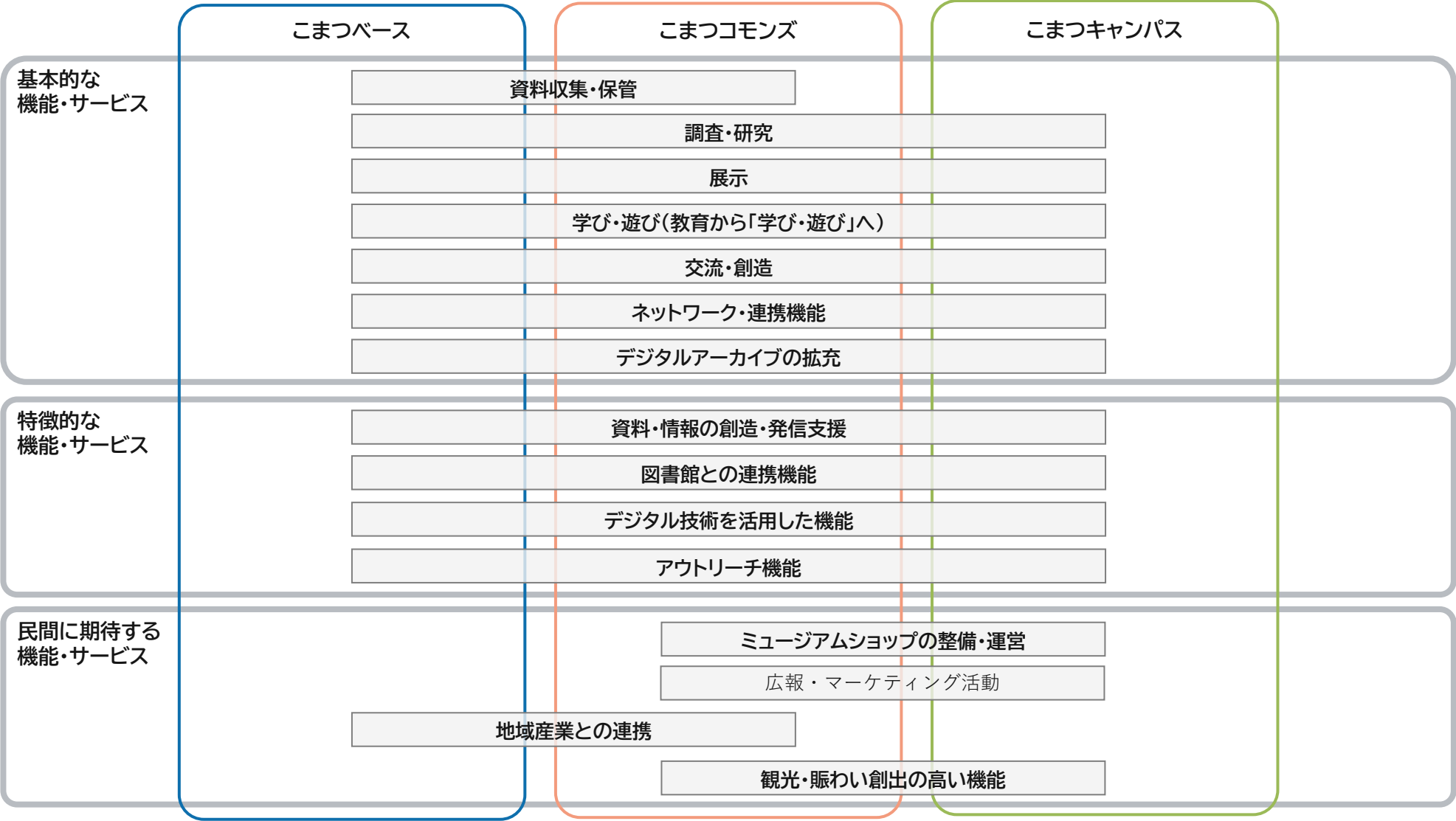
出典:小松市 | 小松市未来型図書館等複合施設 官民連携事業調査 報告書

参考資料

施設名称	設置者	事業スキーム・特徴	官民の業務分担			
			調査・研究・ 展示	教育普及	その他 運営	維持管理
北九州市立いのちたび博物館	北九州市	直営。	市	市	市	市
福岡市美術館	福岡市	PFI(RO)を採用。学芸は直営、その他を民間。大濠公園に立地している。	市	市	民間	民間
島根県立美術館	島根県	指定管理。調査・収集・展示は直営、その他(教育普及含む)を民間としている。	県	主:県 従:民間	民間	民間
鳥取県立美術館	鳥取県	PFI(BTO)を採用。学芸は直営。その他を民間。設計に建築家が参入している。	主:県 従:民間	主:県 従:民間	民間	民間
福岡市美術館	福岡市	PFI(RO)を採用。学芸は直営、その他を民間。大濠公園に立地している。	市	市	民間	民間
大阪市中中之島美術館	大阪市	コンセッション方式を採用した初の美術館。2021年度開館予定。	民間 (独法職員)	民間 (独法職員)	民間	民間
弘前市れんが倉庫美術館	弘前市	PFI(RO)を採用。学芸を含む全業務を民間の業務範囲としている。	民間	民間	民間	民間

出典:令和4年度全国博物館館長会議 | 博物館における官民連携手法の効果的な導入(株式会社日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部門 山崎 新太)

3種の機能・サービス



資料収集・保管

知の集積

地域の歴史文化
の集積・編集

基本的な考え方

- ・ 歴史資料、民俗資料を中心に、小松市の歴史や文化を象徴する貴重な資料を体系的に収集・保管し、次世代に継承するための基盤を構築します。これにより、小松市の文化遺産、文化資源を保護し、学術的な価値を高めることを目指します。

利活用のイメージ

- ・ こまつミュージアム(小松市の美術館・博物館)や高架下・旭町収蔵庫、埋文センター等との連携を緊密化し、まち全体での収集・保管体制を整えます。
- ・ 適切な収蔵環境を整備し、貴重な資料の保存状態を維持するために、定期的なメンテナンスと専門的な修復サービスを実施します。**※国指定品等の収蔵に堪える施設の整備についてはあらためて検討が必要。**

調査・研究

「個」の活動

知の集積

地域の歴史文化
の集積・編集

活動支援

基本的な考え方

- ・ 収集された資料を基に、小松市の歴史や文化に関する調査・研究活動を推進します。学術機関や研究者、地域住民との連携を深め、地域文化の新しい発見や解釈を生み出します。
- ・ 図書館や公立小松大学、学校との連携によって、地域に広げていくとともに、子どもや若者の学習につながるような調査・検討を進めていきます。

利活用のイメージ

- ・ 図書館との融合による研究スペースで、気軽に資料を手に取りながら、地元の歴史や文化について調べることができます。また、ワークショップやセミナーに参加することで、専門家や他の市民と一緒に学び、地域についての新しい発見を共有する場が広がります。
- ・ 市民学芸員や市民研究員のしくみをつくり、学芸員から学び、主体的に活動する、共創型調査・研究の実践を進めます。

展示

知の集積

知・文化の共有

地域の歴史文化
の集積・編集

活動支援

創造

発信・表現

基本的な考え方

- ・ 2つのテーマ「こまつの石の文化と人」、「こまつの〈いま・ここ〉の日常と文化」を軸に、小松市の歴史や文化を、視覚的だけではなく体験的にも伝えることを意識した、常設展示や企画展示を行います。展示内容を多様化し、訪れるたびに新しい発見があるような魅力的な展示空間を提供します。
- ・ 展覧会の開催については、これまでの「年1回程度の特別展(おもに秋)・年3回程度の企画展」をベースに、日常的に変化する小さな展覧会、小さな展示を実施し、「飽きない博物館」を目指します。特別展、企画展は2つのテーマを基盤に置きながら、独自のテーマ、視点に基づくキュレーションによって、企画・実施します。
- ・ 展示資料だけでなく、まちなかに存在する歴史や民俗に関連する場所やモノ、人も展示の一部として捉え、施設内だけでなく、まちなかでも「本物」に触れることができる「まちじゅう博物館(仮)」を実現します。
- ・ 常設展示だけでなく、企画展示についても無料ゾーンを設ける等、「見える化、触れる化」を進め、より博物館を身近に感じていただける展示を実施します。

利活用のイメージ

- ・ まちなかの小さな展示に触れることで、博物館の展示を知り、施設での展示にも触れる機会が生まれます。こうした、日常の中での出会いによって、未来型図書館、博物館を身近に感じることができます。
- ・ 家族や友人と一緒に訪れると、物語(ナラティブ)と、最新のデジタル技術が混じり合った多角的な展示を体験することができて、小松市の歴史や文化を楽しく学べます。特別展では、毎回新しいテーマが設けられ、訪れるたびに新しい発見や驚きがあります。
- ・ 「小さなみんなのメディア_7」ショートプレゼン、小さなギャラリー、マイ本棚等に日常的に触れることができる環境が生まれます。特別展や企画展とこうした小さな展示がゆるやかにつながり、博物館の展示がフレンドリーなものとなります。

学び・遊び(教育から「学び・遊び」へ)

知の集積

地域の歴史文化
の集積・編集

子育て支援

創造

発信・表現

基本的な考え方

- ・ 伝統的な教育的プログラムにとどまらず、遊びを通じて学べる体験を提供します。子どもから大人まで、世代を超えた学びと交流を促進し、文化を身近に感じてもらうことを目指します。

利活用のイメージ

- ・ 子どもたちは、遊びながら歴史や文化について学べる楽しいワークショップに参加でき、大人も一緒に体験できるプログラムが充実しています。図書館の中や屋外スペースでのイベントを通じて、親子で学びを楽しむ時間を共有できます。
- ・ 「文化のカジュアルな入口_2」食や音楽、アート等を入口にすることで、楽しみながら参加することができます。そして、その次の段階として、より深い体験をすることで自然に学ぶことができます。

交流・創造

くつろぐ・居場所

体験の共有・交流

活動支援

創造

発信・表現

共に創る

基本的な考え方

- ・ 市民同士が交流し、創造的な活動を展開する場を提供します。図書館と博物館の機能を融合し、文化的な共創の場として機能することで、新たな価値やアイデアの創出を促進します。

利活用のイメージ

- ・ 地域の研究者やクリエイターと出会い、共に作品を作るワークショップやイベントが開催され、創作の喜びを感じられます。また、自由に集まり、意見を交換できるスペースがあり、地域の新しい仲間やつながりが生まれる場となります。
- ・ 「アーカイブからフェスティバルへ！_1」アーカイブを土台に、推し活が集結したフェスティバルでみんなが推しを楽しむことができます。
- ・ 「ピクニック的に行ける！_2」手ぶらで来て、博物館の環境(芝生等)や什器備品(クッションやハンモック)を使って、くつろぎながら、展示やイベントに気ままに参加することができます。

ネットワーク・連携機能

知の集積

地域の歴史文化
の集積・編集

施設・地域連携

体験の共有・交流

活動支援

発信・表現

基本的な考え方

- ・ 小松市の他の文化施設や公立小松大学、学校、企業、団体と連携し、情報や資源を共有することで、地域全体の文化活動を支援・強化します。ネットワークを通じて、小松市全体の文化的価値を高め、まちづくりに貢献します。

利活用のイメージ

- ・ 市民は他の文化施設や教育機関との共同イベントやワークショップに参加することで、地域全体の文化活動に参加し、広範な学びと交流の機会を得られます。また、他施設の利用者との共同プロジェクトを通じて、新たなコミュニティづくりに貢献できます。
- ・ 「人間博物館_2」「私と世界 新しい扉_5」「あの人は沼(小松の生きる博物館)_6」文化資源の根源は人間です。人を知り、人とつながることにより、そうした根源に触れることができます。

デジタルアーカイブの拡充

知の集積

「個」の活動

地域の歴史文化
の集積・編集

活動支援

発信・表現

基本的な考え方

- ・ KOMATSU CITY MUSEUMS(小松市の美術館・博物館ポータル)を基盤に、地域の歴史や文化資源のデジタル化を拡充、再構成し、オンライン上でのアクセスを容易にすることで、地域の情報資産を広く共有・発信します。これにより、市民の学習機会を拡大し、地域外の人々にも小松市の魅力を伝えることを目指します。

利活用のイメージ

- ・ 自宅からでも、スマートフォンやパソコンを使って、小松市の歴史資料や文化財にアクセスできることを知ることで、市民は気軽に資料を検索し、家族と一緒に地域の歴史を学ぶことができ、学校の課題や地域活動にも役立てられます。
- ・ 「小松図鑑_7」単純なデジタル化ではなく、日常の活動やフィールドワーク等アナログな情報をネットワークでつないだ、ハイブリッドなメディアによるアーカイブづくりを、市民が一緒になって進めていきます。

資料・情報の創造・発信支援

「個」の活動

地域の歴史文化
の集積・編集

創造

発信・表現

共に創る

基本的な考え方

- ・ 市民が地域の文化や歴史に基づいた新しい資料やコンテンツを創造し、それを発信できる環境を整えます。地域の歴史をただ学ぶだけでなく、創造的に発信することで、市民の文化的表現を促進します。

利活用のイメージ

- ・ ワークショップや講座を通じて、市民が自身の物語を作り、施設やオンラインプラットフォームで公開できる機会が増えます。自分の作品を広く市民に見てもらえる喜びを感じながら、地域文化と一緒に創造する楽しさを体験できます。
- ・ 「変わりゆく小松、飽きない発信～資料(本物)をつくる_5」小松城を再現する”といった大きなテーマに取り組むことで、持続的な展示やイベントをつくることに参加することができます。

図書館との連携機能

知の集積

「個」の活動

地域の歴史文化
の集積・編集

施設・地域連携

活動支援

基本的な考え方

- ・ 図書館との連携機能の導入は、「すべての人々に開かれた、学びと楽しみ、そして未来を考えるための機会」を提供することを目的とします。そのため、展示や学習プログラムの共同実施、資料のデジタル化とアーカイブの共有、レファレンス・レフェラル機能の統合、学校や公立小松大学との連携等、多様なプログラムを企画・実施します。これにより、地域社会における学習と文化の発展が促進され、市民はより豊かな学びと体験を得ることができるようになります。

利活用のイメージ

- ・ 図書館と博物館、そして学校や公立小松大学と連携したプログラムにより、市民が地域の専門家や教育機関とつながりながら、より深い学びを体験できるようになります。
- ・ レファレンス・レフェラル機能が統合されることで、図書館と博物館双方の情報資源を活用し、より充実した調査や情報検索のサポートを受けられるようになります。
- ・ 「無形図書館・博物館_6」例えば音楽(本や展示ではない体験)のような無形の文化資源にも触れることができます。

デジタル技術を活用した機能

施設・地域連携

体験の共有・交流

創造

発信・表現

共に創る

基本的な考え方

- 最新のデジタル技術を活用し、インタラクティブな展示やバーチャルリアリティ(VR)体験等を提供することで、来館者に新たな学びと発見の機会を提供します。
- デジタル技術を活用した機能の導入は、生成AIをはじめとする新しい技術を市民が身近に感じられる体験を提供することを目的とします。そのため、デジタル技術を楽しみながら学べる機会を提供し、デジタル(情報空間)とアナログ(実空間)の体験を一体的にデザインし、整備します。これにより、多様で新しい形の社会参加を実現するとともに、未来型図書館がデジタル技術においても地域社会をリードし、市民の社会参加を支える役割を果たします。

利活用のイメージ

- 自分のスマホやタブレットを使っでの展示解説や、VRゴーグルを装着して歴史的な建物や風景を体験できるコーナーがあり、市民はまるで過去にタイムスリップしたかのような感覚で、地域の歴史に触れることができます。
- AIについては、市民が基本から学ぶことができ、体験を通じて、活用や創造についても深く考えることができます。

アウトリーチ機能

知の集積

施設・地域連携

体験の共有・交流

活動支援

基本的な考え方

- さまざまな理由で博物館を訪れることができない方々にも、未来型図書館の機能・サービスを提供することを目的とします。そのため、市民参加による共創型の出張図書館に博物館機能も加えたり、「まちじゅう博物館」の企画・運営を進め、これにより、未来型図書館は地域社会全体に学びや文化活動の機会を提供し、多様なニーズに応えるサービスを展開します。

利活用のイメージ

- 博物館を訪れることが難しい市民が、自宅近くや集会所等で未来型図書館の機能・サービスを受けられるようになります。

ミュージアムショップの整備・運営

地域の歴史文化
の集積・編集

施設・地域連携

体験の共有・交流

創造

発信・表現

基本的な考え方

- 地域の文化や特産品を取り入れた商品を販売するミュージアムショップを、民間の事業として整備・運営することで、訪問者に小松市の魅力をより深く知ってもらう機会を提供します。ショップはただの物販の場ではなく、地域の文化を発信し、地元産業と連携する場とします。

利活用のイメージ

- 市民や観光客は、展示を楽しんだ後にミュージアムショップで地元の工芸品や限定グッズ、書籍を購入できることで、小松市の文化や歴史を家に持ち帰る楽しみが増えます。ショップ内で行われる地元作家の作品販売イベントやワークショップにも参加でき、新たな発見と出会いの場が提供されます。

広報・マーケティング活動

文化の共有

体験の共有・交流

創造

発信・表現

基本的な考え方

- 民間事業者と市民(市民コミュニケーター)が連携し、SNSやデジタルメディアを活用した広報・マーケティング活動を強化することで、博物館の認知度向上と来館者の増加を図ります。

利活用のイメージ

- 市民は、SNSを通じて企画展やイベントの情報をリアルタイムで受け取ることができ、興味が湧いた時にすぐ訪れることができます。また、オンラインでの展示解説やバーチャルツアーが提供されることで、物理的に来館できない人も小松市の文化に触れる機会が広がります。

地域産業との連携

施設・地域連携

体験の共有・交流

創造

活動支援

共に創る

基本的な考え方

- ・ 地元事業者(製造業、繊維業、農業等)や地域の研究者や、作家・クリエイターとのコラボレーションを通じて、地域の産業や伝統技術を紹介する特別展示やワークショップを実施し、地域産業の理解促進と振興に寄与します。
- ・ 地元事業者や団体と連携し、博物館機能の充実を目的としたスポンサーシップや寄付を促進します。これにより、財政的な支援を受けながら、多様な展示やプログラムを実施します。

利活用のイメージ

- ・ 来館者は、博物館内で開催される地域企業とのコラボレーション展示や体験型イベントに参加し、地元の産業や技術の魅力を直に感じることができます。例えば、地元の伝統工芸のワークショップや食品メーカーとの試食イベントを通じて、小松市の地域資源に触れながら楽しめる場が提供されます。

観光・賑わい創出の高い機能

くつろぐ・居場所

文化の共有

体験の共有・交流

子育て支援

発信・表現

基本的な考え方

- ・ 観光交流課や民間事業者と協力し、在留外国人や訪日外国人(観光、ビジネス、留学)向けの多言語対応ガイドツアーやコンテンツを提供し、国際的な来館者に対しても地域の魅力を伝えます。観光スポットとしての機能を持つことで、地域全体の経済活性化につなげます。

利活用のイメージ

- ・ 「こまつクエスト_4」「グローバルこまつフーズ_7」「食べ歩き、飲み歩きプロジェクト_3」市民と観光客は、季節ごとに異なる特別展示や冒険(非日常)、食(日常×非日常)等、多様なプログラムを通じて一緒に楽しむことができます。観光客も巻き込んだ参加型のイベントにより、地域全体の一体感が生まれ、まちの活気がさらに高まります。

博物館の規模について

- ・「小松市未来型図書館等複合施設官民連携事業調査報告書」(令和6年3月)(以下、報告書)における検討に基づき、既存展示資料の再編・分散収蔵、図書館機能や施設共用空間を活用した展示の工夫等により、展示室の必要面積を現在の約半分程度、また、バックヤード機能を同規模とした場合、博物館機能面積は約900㎡と想定します。
- ・市民ギャラリーは、同じく「報告書」における博物館機能の整理の通り、現状面積の確保を基本とし、約300㎡を見込むこととする。

展示室(常設／企画展示スペース)

- ・常設展示スペースとして、2つのテーマ「こまつの石の文化と人」、「こまつのくいま・ここ」の日常と文化」のためのスペースを設置します。それぞれのテーマをより深く感じるための、特徴的なスペース(参考:アチック・ミュージアム、驚異の部屋・ヴンダーカンマー等)を整備します。
- ・企画展示スペースを設置します。指定文化財や他施設から借用した貴重な資料を展示できる適切な室内環境を整備します。企画展示と常設展示との連携を可能にする空間構成を整えます。

博物館収蔵庫・バックヤード

- ・所蔵資料の保存と借用資料の一時保管に対応し、耐火・耐震・安全性を備えたスペースを設置します。また、貴重文献や指定文化財の資料の借用を想定し、公開承認施設に対応する設備を整備します。
- ・学芸員の執務・研究スペースや事務スタッフの執務・待機スペースを整備します。また、搬入トラックの収容や開梱・梱包作業ができるスペースも確保します。

市民ギャラリー

- ・ 市民の作品や創作スタジオで制作した作品、子どもたちの自由研究などを展示・発表できるスペースを設けます。また、共用スペースと一体的に運用することも検討します。
- ・ 常設展示スペース、企画展示スペース、図書館機能等と、多様な連携を図ることができるよう、柔軟な空間や什器備品、ネットワーク環境を整備します。

図書館との融合スペース

- ・ レファレンス・レフェラル機能に加えて、図書館と博物館の展示や資料を一体化した空間を設け、来館者が自然な流れで両機能のコンテンツを楽しめるようにします。
- ・ 図書館のテーマ配架と博物館の資料や展示物(小さな展示)をテーマに沿って組み合わせたエリアを作り、来館者が同じテーマで多角的に学びや発見を得られる環境を整えます。

共用スペース

- ・ エントランスホールや市民ギャラリー、交流スペース等にも、図書館の本やテーマ配架と連携した企画や、小さな展示や多様なメディアによって、施設全体が一体感を感じるレイアウト配置や空間を演出します。書架は融合をつなぐインターフェイスとして分散配置します。
- ・ エントランスホールは、未来型図書館の情報の入口として、施設の基本情報に誰もがアクセスできる場所となります。